

第4章 秋田の縄文遺跡群の未来像

1 未来像

ストーンサークルがつなぐ 過去－現在－未来 人の和

ストーンサークル、環状列石は、地域の人々が集い、一緒にまつりをする中で仲間意識を高める場所としてつくり出されたと言われています。今日、遺跡として再び姿を表した大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡は、遺跡を守り、その価値を伝える多くの人々が活躍する場所として新たな役割を持つとともに、たくさんの人々がつながる場を提供しています。こうしたつながりを、時代を超えて受け継いでいき、世界中の人々との和（環）が生まれる場所となることを目指していきます。

2 基本方針

未来像を実現するために、次の三つの基本方針を定めます。

- －基本方針1－ 秋田の縄文遺跡群を受け継ぐ
（価値の共有と保護意識の醸成）
- －基本方針2－ 秋田の縄文遺跡群でつながる
（地域でつくる受入体制とにぎわい）
- －基本方針3－ 秋田の縄文遺跡群から広がる
（遺跡を核とした人の環と結びつき）



第2図 大湯環状列石の未来像（イメージ）



第3図 伊勢堂岱遺跡の未来像（イメージ）